

の機密保持」がある。インテリジェンスのグルと目されたスウェーデン・ルンド大学ステバン・デジエル博士は1970年代初めに世界で初めてルンド大学に「ビジネスインテリジェンス」講座を開設したことで有名である。デジエル博士の講座ではまず冒頭に「情報の機密保持」を強調し、重視した。

インテリジェンスの重要な役割の一つに「情報の機密保持」がある。最近の度重なる日本政府や日本企業へのサイバー攻撃でもわかる通り、「機密情報防衛」は「経済安全保障」、「的所有権保護」とも関連し、高度情報、知識社会において企業、国家にとっても最重要な課題である。

2013年11月2日ロンドンで開催されたサイバー空間に関する国際会議でサイバー犯罪を「経済、社会福祉に対する深刻な脅威」と認定し、政府間の信頼構築へ努力すること」を議長声明で確認した。

1996年には米国は有名な「経済スパイ法」(Economic Espionage Act=EEA)を策定し、経済スパイへの重い罰則を導入した。一方、アングロサクソン諸国は1940年代からスパイ衛星を活用し、Echelon(梯子の隠語)盗聴システムを稼働させ、軍事情報のみでなく、経済情報も盗聴しているとして、欧州議会でも批判的になった。

『知識情報戦略』24~25ページ)。インテリジェンス戦略に於いては、戦略確立のための Aggressive Intelligence(攻撃的情報)のみならず、防御的情報(Defensive Intelligence)の研究も重要である。

グローバル時代の経済競争は熾烈な情報戦でもあることを認識し、インテリジェンス、情報を最大限に活用する方策を研究することが肝要である。

日本では情報機密保持がずさんで、ゆるく、日本はスパイ天国と見られている。過去、日立・三菱電機~IBM、富士通~AMDAL、ミノルタ~Honeywell。東芝機械の工作機械の対ソ輸出問題、CCI(クリーブランド医学研究所)でのアルツハイマーバイオ試薬事件など枚挙にいとまがないほどである。

東芝機械については高性能工作機械をソ連へ輸出したことで、ソ連潜水艦のプロペラの消音が実現し、追跡が困難となった。これは、共産圏向け輸出を規制しているココムに違反しているとして米国は東芝の米国向け輸出の1年間の禁止、米国主要新聞に謝罪広告の掲載を要求された。

しかし、後日、ソ連潜水艦のプロペラの消音は東芝機械の輸出前から実現していたことが判明。東芝はあらぬ濡れ衣を着せられたのである。

CCIバイオ事件でも、域外管轄の日本人研究者を逮捕し、裁判にかけた。これは上記米国経済スパイ防止法(EEA)の外国人に対する初の適用となった。しかし実情については不明な点があり、問題となっている。

先年、問題となった中国ファーウェイの副会長拘束、ファーウェイ通信機器が盗聴に使用される危険があるとして米国からの締め出し、半導体製造機器、先端半導体の中国向け輸出禁止など、かつての日本の自動車などの米国輸入規制など、1980年代をほうふつさせるものがある。

## 4. グローバルビジネスとビジネスインテリジェンス、競争情報

経済のグローバル化が急速に進み、国際ビジネス競争が激化し始めた。冷戦の崩壊で、世界の有効需要が10億人から30億人に拡大し、自由主義圏、旧共産圏の市場競争と国際ビジネス家競争がし烈になり始めた。

1986年になると米国 SCIP (Society of Competitive Intelligence Professionals=競争情報専門家協会)がバージニアに元CIA諜報関係者などを中心に設立され、競争相手の情報収集の研究が始まった。

かかる状況下、欧米では米英を中心に競争情報の研究が急速に進み、現在もSCIPは毎年、米国を中心に世界主要国で競争情報研究会を開催している。

以下ビジネスインテリジェンスを理論面から考究する。

### 1) ビジネスインテリジェンス情報理論

情報とは; ① 情報、データ、

②インテリジェンス(付加価値情報)

情報の種類: ① 公開情報(40%)、②私的情報(60%)

③秘密情報(約3%)

情報の特性; 与えても低減しない。(中川情報理論) 情報理論;

Herbert E. Meyer; ① 情報レーダー理論

②情報製油所理論

Ben Gilad; ① 情報濾過(コーヒー濾過)理論

中川 十郎; ① 情報グルメ理論

②情報水力発電所理論

③ 情報3倍、3乗(Triple)理論=

3倍蒐集、圧縮1・3理論

情報の活用; ① 既存ビジネスの深化、拡大、新規ビジネスの創出

②リスク。危機管理

③情報の機密保持

情報監査 (Intelligence Audit) 情報・情報源の評価、情報の成果評価、cf(財務監査)

情報連鎖管理 (Intelligence Chain Management: {ICM})  
—目標設定~戦略作成~情報収集、情報選別~情報源信頼性チェック~情報分析、~情報評価~情報配布~情報活用~情報監査~成果セ~レビュー